

体験型道の駅「リング」

「豊かな自然と恵み」×「スポーツ+芸術」で人を呼び込め！

駅前にあるべき道の駅は、選り抜いた本場に大事なたった一つの大きなアイデアをカタチにし実現する事が大事です。「豊かな海の幸・畑の幸」をして「豊かな自然と恵み」が大きな存在でありそれを活かす「スポーツのメッカを育む事業」は、道南サンリウムの非常に優れたアイデアです。我々はこれからの資産や活動を「型」し、シンプルとして愛される施設を設えること。そして「また活かしきれない資産」を「強みとして育む」ための小さな種を植えたいと整理しました。

駅山の道の駅が生まれ、反映も我道もします。それには理由があり、設計理念として以下の3点を整理した。【1】経済的メリットを提供できる事、ここでしか手に入らない高級なモノを提供しアクアラインの往復5000円の通行料というハードルを相殺できる種を提供する事。【2】得難い体験や価値のある心や体で得る報酬を提供する事。【3】「強みは人それぞれだが、共通する家族や恋人・仲間の笑顔を確立する。【3】「強みは人それぞれだが、私にも協力できる事がある」という動機付けが得られる理由をデザインする事です。

駅前の学校跡地には「校舎、体育館、そしてグラウンド」と大きく3つのエリアがある。この設計理念を受けつつの視点設計方針とした。

1. 基本の記憶を保持
2. 各スペースを適量確保し「食、物販、情報、体験」の道正事業バランスを創る
3. 地域に相応しいソーラー・雨水・地熱など自然エネルギーの活用
4. グラウンドにスポーツを軸とした道南の町並みの連携シンボルを設える
5. その延長線上に、他に類のない独自の商業「スポーツアウトレット」を提供する
6. 体育館にランドマーク性や防災機能を持たせる
7. 芸術を振興していくための種を一つ産み落とす
8. 情報提供サービスとして「守りと攻め」の両面を機能化させる場所を設える

1. 「食や物販」は校舎の1階部分を利用。教室という記憶の中で「手作り感・シズル感・ボリューム感」を提供する場所。冬の農作物の閑散期は海鮮のウエイトを高く、成功モデルである「ばんや・紀伊国屋」のメニューやホスピタリティー等と柔軟に連携する為に「作り込まず、回遊性」を重視し、訪れる人が自然に全てのエリアへ足を伸ばす為の通路や二階のテラスエリアへの直接的な動線や回遊性を確保した。

2. 校舎2階部分は合宿エリアとし浴室を増設。「学舎」は企業研修として最適であり安価な宿泊施設を補う機能となり道の駅で社会問題化している車中泊と治安を解決する対策としても有効。託児所や防災時の宿泊拠点・緊急時の介護ベッドとしての利用なども可能。校舎の半分が通年固定利用される事は経営を安定化させる効果も期待できる。

3. 設備面では自然エネルギーを積極活用する。時代の要請だけでなく自然の恵みとスポーツをキーワードとする道南においては、自然エネルギーの利用が戦略的にも意味が高い。エネルギー源としては、ソーラー・雨水・地熱を利用する。駐車場にはソーラーとつないだ電気自動車用の急速充電スタンドを数台設置し併せて環境重視対応をアピールする。

4. トラック部では運動感と連帯感をデザインする。校舎が持つ構造的ラインと繋げながら、多重利用できる立体的なトラックを構築する。立体グラウンド「スポーツRING」は、道の駅設立直後のシンボルとして、また、ランドマークやランドロゴとして活用する。

トラックとしての記憶や機能を残しつつ運動感を「隆起・ストリーム」で表現する。この流れのような隆起は、めぐりあがらせたトラックの上部がイベント時には観客席となり、その下部の部分は子供がふれあうミニ動物ゾーンとなる。校舎から遠く奥い対策としても有効な配置であり雨水や地熱を利用することで通年を通して一定の環境を動物に提供する。反対側の隆起は、車歩分離機能や、車道を進みながらゲートを超えるわくわく感・イベント時のスタート・ゴール地点にも利用。トラック内部は、フットサル・ふれあいパーク・イベント会場として活用する。トラックそのものも、隆起が楽しい運動場として子供たちが走り回る場所となり新しいユニークな体験を提供する。

5. 校舎1階には他に無いスポーツ専門のアウトレットゾーンを設置。定価売りが多いユニークな専門スポーツ用品を季節変わりに廉価で提供する事でリピーターの経済的メリットを提供する。様々なスポーツを気軽に体験できる「コーチング」「レンタル」などを充実させることが笑顔体験の重産と情報拡散につながります。

6. 体育館は屋内子供広場や体育館としての利用を前提とする。ホールディングウォールを兼ねた耐震補強を施し、工事費用対効果を高める。ホールディングウォールは道南でもなく、学校教育でも取り入れられ競技人口も20万人と拡大中。ホールディングウォールはソーラーとつなぐ「LED発光ウォール」とウォール全体が災害時のアイコンとなり、かつ深夜の照明としても利用される。24時間トイレへのアクセスと防犯上、このウォールエリアにトイレや電話を配し夜間は校舎付近へ人寄せする必要があるゾーンングとする。欧米での競技人口はフランスアメリカなど100万人をこえる人気のスポーツであり世界大会を通じて外国人誘致策としての機能を。体育館とリングをランドマーク化し、高速を下りた最初のゲートキーパーとしての輝きを構築する。

7. 芸術振興強化への布石について
折角の「芸術資産」をもっと育むべきである。芸術を自然やスポーツとつなぐアイデアとして「ナチュラルアーキテクチャーの聖地化」を目指す。桜の名所や「聖川師宣記念館」への散歩道・マラソンのトレイルに「ランドアート」をちりばめる事で「芸術新興」を育む。助成金等を活用し、多くのデザイナーやアーティストが短い時間をかけて聖地化する活動の試金石となるよう、道南として敷地内に「のこぎりロック」というランドアートの種を一つ設置したい。ランドアートから校舎までの動線は水仙ロードとして周辺環境と調和した魅力的なランドスケープを形成する。

8. 「情報発信」を強化する。いわゆる町の総合情報の提供サービスに加え、動画や文字で、「届くタイムリー」に情報発信する拠点を設える。様々な活動をYouTubeやフェイスブックにどしどしアップし体験者がSNSで拡散したくなるネタを生み出す活動拠点です。この情報拠点は、道の駅の購買体験を道南事業につなぐための「通販・宅配」機能も担います。情報武装を物販と繋げる開かれたインフォメーションセンターとなります。



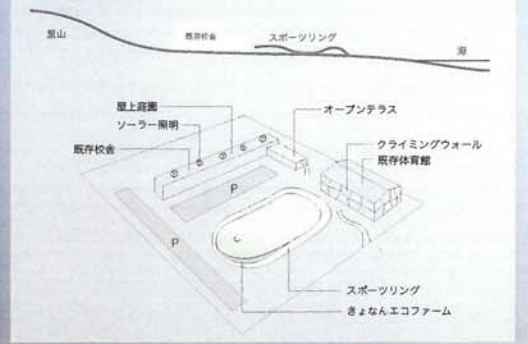
*予算配分について
上記の提案ではおよそ1億円ほど余裕を見込みます。プールを「スラックライン」利用する為の軽微な整備費用や、道南町健康福祉総合センターに残される校舎の解体・グラウンド整備費用を調整したいと考えます。近くに公式サイズのグラウンドを持つことで、更なる道の駅への訪問・滞在利用促進効果も狙います。

最後に、訪問者に経済的メリットと同時にプライズレスな体験を提供し、町の皆さんが得意分野を持ち寄り、道南全域エリアとの繋がりを生み出すことで「沢山の笑顔」を生み出す「新しいタイプの体験型道の駅」を提案しました。高速を下りた最初のゲートキーパーとしての地の利に意味を持たせ、日帰り訪問を促し滞在訪問へと繋げます。校舎の記憶や設立の意義を「想起」し、RINGのように、「海と畑の幸」×「スポーツ+芸術」を連携し道南のファンをつなぎ増やす活動に微力ながら一役買いたいと思い、以上を提案します。



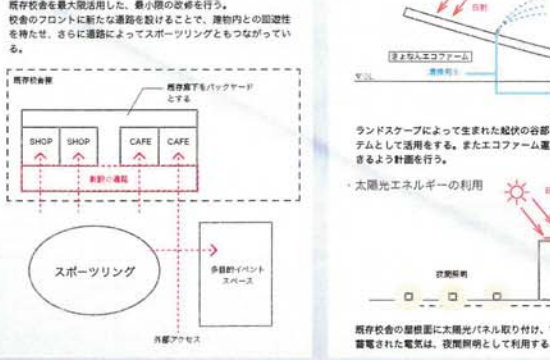
01. 全体配置計画

山から海につながる風景の一部として、既存の街や地形と共存するランドスケープを計画します。施設を中心に公園を配置し、多くの町民が過ごした小学校の記憶をグラウンドという形で記憶に残します。



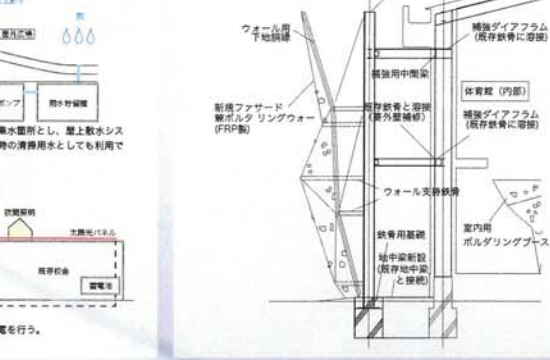
02. 既存校舎 改修計画

・動線計画
既存校舎を最大限活用した、最小限の改修を行う。校舎のフロントに新たな通路を設けることで、建物内との回遊性を確保し、さらに通路によってスポーツリングとつながっている。



03. 設備計画

・雨水利用による屋上散水システム
ランドスケープによって生まれた配水の谷部を集水溜りとし、屋上散水システムとして活用する。またエコファーム運用時の清浄水としても利用できるよう計画を行う。



04. 既存体育館 耐震改修計画

・耐震補強 ファサード
新設ファサード兼ホールディングウォール (FRP製)



05. 防災拠点

・日常の公園を非常時の避難場所とする
日常の中で親しまれている公園を災害時の避難場所とすることで、非常時の落ち着いた行動と安心感が得られる。
・照明による防災計画
高い建物が少ない道南町では、照明による防災計画を提案する。夜間の災害時には、明るい場所を求めて避難すると言われている。暗闇の中で防災拠点が発光することで周辺の住民を集める目印になる。





■ 宿泊施設

協力事業者と連携し、需要に応えてスポーツ合宿ビジネスに対応した宿泊室を提供します。一部レベルを上げて浴室を整備します。また、託居所や防災時の宿泊拠点、緊急時の介護ベッドとしての利用も考えられます。
※収容の約半分を連年利用できるので、収益が安定します。

■ ミナールーム

スポーツ・芸術の交流の拠点として多目的な利用に答えます



■ スポーツ物販

スポーツ・アウトドアを中心としたグッズ販売の店舗を誘致します。将来的にはスポーツ用品のアウトレットモールを目指します。



■ 利用者動線

教室前面にアツキテラスを新設する事で、利用者動線に回遊性を持たせるよう工夫しました。

■ 飲食店舗

豊富な海の幸、山の幸を提供する飲食店舗を設置します。エコファームを利用したオリジナルの物販も販売します。

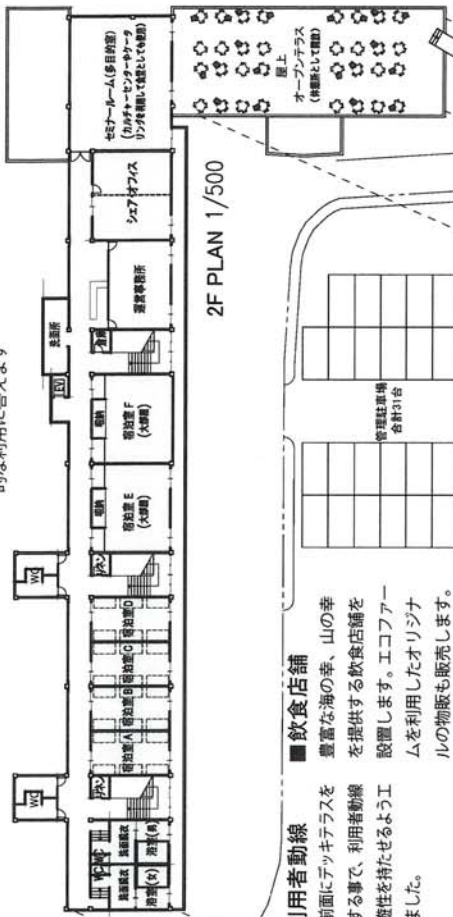


■ プールの再利用

既存の学校プールを利用した、スリッラインなどの練習所として活用しても水泳の初心者や子供でも安心です。



2F PLAN 1/500



■ 物産コーナー

広いスペースで、きよさんの海・山・花、地元の自産の食材を持ち寄り販売します。



■ 地域情報センター

地元情報の発信のみならず、道の駅での販売を「通勤・宅配」に繋げる情報面の販売貢献も狙っています。

■ スポーツリングの他の使い方

簡単な屋外イベント（音楽ライブやフリーマーケットなど）としても利用が考えられます。



■ きよさんエコファーム

丘状に盛り上がった部分のヒロティール部分を利用して豚や鶏やヤギなどを飼育します。得られた恵みはオリジナル物産として加工販売もします。



■ きよさんスポーツリング

（フットサル、バドミントン、ゲーム、ダンス、ヨガなど）
※平日は朝7時から夜10時まで営業（イベント開催時を除く）

長年にわたるスポーツの歴史を継承し、最新のスポーツ用品を揃えています。
（イベント開催時を除く）

■ スポーツリング

元々は小学校のトラックを利用し、子供の遊び場として開放しています。時にはイベントやスポーツの利用もできる多目的な広場です。

■ ノコギリウォール

既存体育館の耐震補強を兼ねた新規ファサードを利用したウォールとして利用します。そびえ立つ立派な壁からインスピレーションを得るデザインです。

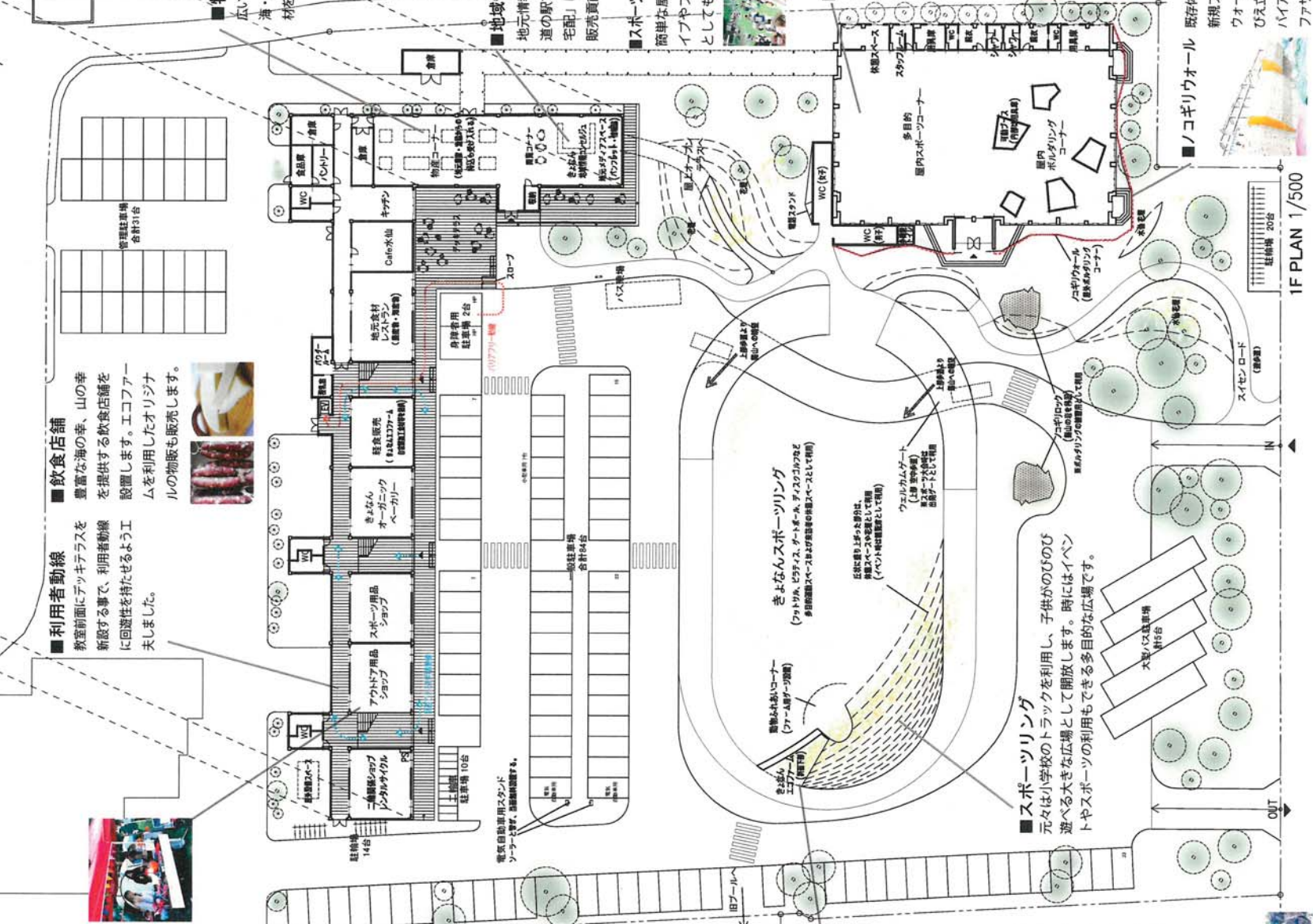


■ ノコギリウォール

既存体育館の耐震補強を兼ねた新規ファサードを利用したウォールとして利用します。そびえ立つ立派な壁からインスピレーションを得るデザインです。



1F PLAN 1/500



■ ノコギリウォール - 「小さく産んで大きく育てるランドアート」

釜山の岩をシンボルとして設置します。岩はいわば天然のアート作品。これをきっかけに、野菜はランドアートを中心にとした芸術・文化の発信の場とします。今後駅の駅から、釜の名所や「豊川師範記念館」への散策道・マラソントレイルに「ランドアート」をちりばめて地域の特徴に育てます。

■ 地域の特徴を活かした、新しい2つのランドマーク

小学校の記憶と釜山のイメージ。この地域を代表する二つの特徴的なシンボルが、高速を下りた最初のゲートキーパーとして道の駅を訪れる人々を迎え入れる新たなランドマークとなります。